

ADG（アンチドラッグジーン）とは、

癌細胞が抗がん剤治療などによって、

自己防衛の手段として 自己の遺伝子を変化させ、

抗がん剤に対する 耐性 を備えることによって

抗がん剤が全く無力になる状態を言い、

反薬遺伝子のことを指して言う言葉です。

1985年、アメリカ国立癌研究所のデヴィタ所長が、

アメリカ議会証言で

「抗がん剤は全く無力であり・・・我々は深い絶望感にとらわれている」と発言し、

その根拠がこのADGの問題であり、

抗がん剤治療を4週間以上続けると、

癌細胞のADG（反抗がん剤遺伝子）が作動して、

抗がん剤が全く効かなくなるという衝撃の報告をしました。

日本では その議会証言に激震が走りましたが、

国や製薬会社、メディア等が既得権益保護のために、

その情報を故意に報道規制したため、

この問題を知っている人が 殆どいない状態となり、

医師でも このADGに対して 無知な人が たくさんいるとのことでもあります。

（医療ジャーナリスト 船瀬俊介氏の発言）

ですから厚生労働省の抗がん剤の認可基準に、4週間以内に 被験者 10人中に1人でも、

薬剤投与によって 腫瘍の縮小がみられれば「効果あり」で、

抗がん剤として認可されている事実があり、

4週間を超えると このADG作動の問題が出てきて 極めて不都合になるので、

期間を区切っているということです。

4週間単位で いろんな抗がん剤を使用しているうちに、

かえって症状が悪化し、

免疫機能や造血機能が 壊滅的打撃を受け、

最後は敗血症や多臓器不全で死に至るというものです。